

【警告】

保管に際しては、有害な気体や液体による汚染のないよう配慮すること。
開封前には包装に破れ等の破損、又は水濡れがないことを確認し、
無菌操作により開封し、包装から構成品を取り出し、使用すること。

ドレープ

可燃性消毒薬を使用の際は、消毒後のアルコール等を完全に拭き取り、
又は完全に気化拡散させてから本品を使用すること。[電気メス
ペンシル等を使用の際、気化したアルコール蒸気の濃度次第で引火する
ことがある。]

内視鏡や開創器等で光源を使用するときは、内視鏡の先端部や内視鏡
から取り外したライトケーブルの先端部をドレープの上に直接置かない
こと。[光源の熱によりドレープが焦げたり、溶けたりして患者の身体に
熱傷が発生することがある。]

電気メスパンシルやレーザーメスの先端部等、熱を発する機器類を
ドレープの上に直接置かないこと。[電気メスパンシルやレーザー
メス等の先端部の熱によりドレープが焦げたり、溶けたりして患者の
身体に熱傷が発生することがある。]

高周波処置用能動器具（電気メスパンシル）

電気メスパンシルをドレープの上に直接置かないこと。[電気メス
ペンシルの熱によりドレープが焦げたり、溶けたりして患者の身体
に熱傷が発生することがある。]

【禁忌・禁止】

再使用禁止

再滅菌禁止

未使用構成品の再使用禁止

天然ゴム使用品については天然ゴムによるアナフィラキシー症状の既往歴が
ある医療関係者の使用及び患者への使用は禁止

【形状・構造及び原理等】

以下の構成品を必要に応じて組み合わせて使用します。組合せによっては
同梱されない構成品もあります。同梱される構成品は内容明細に記載して
います。

●天然ゴム製手術用手袋

- ・天然ゴムを使用しています。

●非天然ゴム製手術用手袋

●短期的使用泌尿器用フォーリーカテーテル

- ・天然ゴムを使用している場合があります。

●間欠泌尿器用カテーテル

- ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用し
ています。

●硬膜外位置確認用ロスオブレジスタンス針なし注射筒

●麻酔用注射筒

●メス

- ・金属を使用しています。

●メス用刃

- ・金属を使用しています。

●ナイフハンドル

- ・金属を使用しています。

●はさみ

- ・金属を使用しています。

●ピンセット

- ・金属を使用している場合があります。

●鉗子

- ・金属を使用しています。

●高周波処置用能動器具（電気メスパンシル、メス先電極）

- ・金属を使用しています。

●電気手術器用ケーブル及びスイッチ

●電気手術電極ホルダ

●電極クリーナ

●穿孔器

- ・金属を使用しています。

●外科用テープ

- ・金属を使用している場合があります。

●人体開口部用超音波プローブカバー

●体表面用超音波プローブカバー

●内視鏡・関節鏡用接続チューブ

- ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)、又はフタル酸
ジイソノニル)を使用している場合があります。

●人工開口向け内視鏡用くもり止め

* ●人工開口向け内視鏡用非能動処置具

●排気用チューブ

●吸引チューブ

- ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用し
ています。製品の一部にポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジイソノニル)を
使用している場合があります。
- ・ポリカーボネートを使用している場合があります。

●汎用吸引用カテーテル

- ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用し
ている場合があります。

●汎用吸引チップ

- ・金属を使用しています。
- ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用し
ている場合があります。

●気管支吸引用カテーテル

- ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用し
ている場合があります。

●胸部排液用チューブ

- ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用し
ています。

- 吸引キット
 - ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用しています。
- 体内留置排液用チューブ及びカテーテル
- 洗浄針
 - ・金属を使用している場合があります。
- カテーテルコネクタ
 - ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用している場合があります。
 - ・ポリカーボネートを使用している場合があります。
- カテーテル用クランプ
 - ・金属を使用している場合があります。
- 手動式生体用洗浄器
- 汎用洗浄用注射筒
 - ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用している場合があります。
- 臍帯閉鎖術用クリップ
- 舌圧子
- ドレープ
 - ・天然ゴムを使用している場合があります。
 - ・金属を使用している場合があります。
- * ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジイソノニル)を使用している場合があります。
- 創傷保護リング
- 医療ガーゼ
- X線造影材入りガーゼ
 - ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用している場合があります。
- 医療用不織布
- 医療脱脂綿
- コットンボール
- 綿状パッド
- X線造影材入りスポンジ
 - ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用している場合があります。
- 医療用スポンジ
- 開腹術用スポンジ
- 医科用捲綿子
- アイパッド
- 圧迫綿
- 汎用注射筒
 - ・ポリカーボネートを使用している場合があります。
- 汎用針付注射筒
 - ・金属を使用しています。
- 経腸栄養注入セット
- 注射用針
 - ・金属を使用しています。
- 皮下注射用針
 - ・金属を使用しています。
- プラスチックカニューレ型穿刺針
 - ・金属を使用しています。
- 一般静脈用翼付針
 - ・金属を使用しています。
 - ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: トリメリット酸トリス(2-エチルヘキシル))を使用しています。
- 自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット
 - ・金属を使用している場合があります。
 - ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)、又はトリメリット酸トリス(2-エチルヘキシル))を使用している場合があります。
 - ・ポリカーボネートを使用している場合があります。
- 自然落下式針なし輸液セット
 - ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)、又はトリメリット酸トリス(2-エチルヘキシル))を使用している場合があります。
 - ・ポリカーボネートを使用している場合があります。
- 輸血セット
 - ・金属を使用している場合があります。
 - ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用しています。
 - ・ポリカーボネートを使用している場合があります。
- 輸血・カテーテル用延長チューブ
 - ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: トリメリット酸トリ(2-エチルヘキシル))を使用しています。
- 延長チューブ
 - ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)、又はトリメリット酸トリス(2-エチルヘキシル))を使用している場合があります。
 - ・ポリカーボネートを使用している場合があります。
- 輸液ポンプ用延長チューブ
 - ・ポリ塩化ビニル(可塑剤: フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)、又はトリメリット酸トリス(2-エチルヘキシル))を使用している場合があります。
 - ・ポリカーボネートを使用している場合があります。
- 輸液ポンプ用ストップコック
 - ・ポリカーボネートを使用している場合があります。
- 活栓
 - ・ポリカーボネートを使用している場合があります。
- 静脈ライン用フィルタ
- 保護栓
- ルアーアダプタ
 - ・ポリカーボネートを使用している場合があります。
- 採液針
 - ・ポリカーボネートを使用している場合があります。
 - ・金属を使用している場合があります。
- ニードルリキャップ器
- 取外し可能な皮膚ステープル
 - ・金属を使用しています。
- 手術用ステープラ
 - ・金属を使用しています。
- 絹製縫合糸
 - ・針付き縫合糸は、金属を使用しています。

●ポリアミド縫合糸

- ・針付き縫合糸は、金属を使用しています。

●ポリエステル縫合糸

- ・針付き縫合糸は、金属を使用しています。

●体内固定用ワイヤ

- ・金属を使用しています。

●縫合針

- ・金属を使用しています。

●持針器

- ・金属を使用しています。

●縫合糸固定用具

**・ポリ塩化ビニル(可塑剤:フタル酸ジイソノニル)を使用しています。

●救急絆創膏

●皮膚接合用テープ

●粘着性透明創傷被覆・保護材

●カテーテル被覆・保護材

●手術用被覆・保護材

●綿状創傷被覆・保護材

●ポビドンヨード製剤

●附属品

ガウン … 術者の手術着

- ・天然ゴムを使用している場合があります。

キャップ … 手術用の帽子

- ・天然ゴムを使用している場合があります。

マスク … 手術用のマスク

包帯 … 包帯

- ・天然ゴムを使用している場合があります。

不織布縫製品 … 汚染防止用不織布縫製品

- ・天然ゴムを使用している場合があります。

汚染防止用カバー … 汚染等を防止するためのカバー類

- ・天然ゴムを使用している場合があります。

滅菌包装材 … 滅菌用包装材

防水シート … 液体等の浸透防止シート

- ・金属を使用している場合があります。

吸収材 … 液体等の吸収材

トレイ … 構成部品等の収納容器

- ・金属を使用している場合があります。

膿盆 … 汚物用容器

シャーレ … シャーレ

カップ … 円筒形の容器

攪拌具 … 薬液の攪拌等

把持具 … 挟んで保持するもの

- ・金属を使用している場合があります。

廃液チューブ … 廃液用チューブ類

- ・ポリ塩化ビニル(可塑剤:フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用している場合があります。

廃液チューブ用コネクタ … チューブ類の接続具

クランプ … 廃液等の流路調整具

コードホルダ … コードやチューブ等の保持具

駆血帯 … 駆血用伸縮帯

- ・天然ゴムを使用している場合があります。

ブラシ … ブラシ

セーフティホルダ … 術中の安全管理のための器具

- ・金属を使用している場合があります。

粘着テープ … 器具等の固定材

結束具 … 構成部品等の結束具

- ・天然ゴムを使用している場合があります。

- ・金属を使用している場合があります。

固定具 … 不織布や器具等の固定及び保持をするもの

- ・金属を使用している場合があります。

廃棄用バッグ … 廃棄用バッグ

洗浄用具 … 洗浄用の器具・容器等

- ・ポリカーボネートを使用している場合があります。

呼吸補助具 … 呼吸空間確保具

インスツルメントワイプ … 器具用ワイプ

識別補助具 … 識別・表示用の器具

採取用容器 … 採取したサンプル等の一時保管用の容器

ラベル … 識別・表示用のラベル

- ・天然ゴムを使用している場合があります。

- ・金属を使用している場合があります。

収納用ポケット … 器具・構成部品等の収納

- ・金属を使用している場合があります。

液体吸引具 … 廃液用吸引具

- ・ポリ塩化ビニル(可塑剤:フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用している場合があります。

保持用シート … 器具等の保持用シート

- *・金属を使用している場合があります。

薬液トレイ … 消毒液等の薬液用容器

消毒液塗布具 … 消毒液塗布用の器具

切開線用マーカ … 予定切開線用マーカ

計測具 … 定規、巻尺等

廃液バッグ … 汚水収集バッグ

- ・ポリ塩化ビニル(可塑剤:フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)、フタル酸ジイソノニル、又はテレフタル酸ビス(2-エチルヘキシル))を使用している場合があります。

綿棒 … 綿棒

フィルタ … 廃液ろ過用フィルタ

防眩材 … 防眩用の器具

ヨード除去剤 … ヨード除去剤

保護具 … 器具等の保護及び術者の汚染防止用器具

記録紙 … 記録等をするための用紙

手袋 … 検査、作業用手袋

- ・ポリ塩化ビニル(可塑剤:フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))を使用している場合があります。

局所カバー … 身体の一部用のカバー

緩衝材 … 術中の患者用緩衝材

廃液ボックス … 感染防止用の廃液容器

潤滑ゼリー … カテーテル等の挿入時に使用する潤滑ゼリー

【使用目的又は効果】

本品は外科領域における手術準備及び検査的治療、又はその他外科的処置を迅速かつ清潔に行うため、必要な構成部品を予め組み合わせたものである。

【使用方法等】

（キット製品全体）

- ・品質有効期限内であること及び包装に破れ等破損又は水濡れがないことを確認してください。
- ・滅菌バッグを開封する際には、開封口に異物がないことを確認してください。
- ・使用直前に開封して使用してください。
- ・無菌的に本品を取り出し使用者の手順に従って展開し手術準備をしてください。

（構成部品共通）

- 吸引チューブ、汎用吸引用カテーテル、カテーテルコネクタ
 - ・各種の器具類やチューブ類との径を合わせて、しっかり接続してください。
- 綿状パッド、X線造影剤入りスポンジ
 - ・全ての止血綿は、滅菌された生理食塩液に全体を浸し、使用直前に絞って使用してください。
- 自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット、自然落下式針なし輸液セット
 - ・もとより静脈針がなく、接続部等に静脈針を接続する場合は、接続部にエア抜きを行います。接続部に緩みがないことを確認してください。
- 延長チューブ、輸液ポンプ用延長チューブ
 - ・接続部は全てルアータイプになっているので、保護栓を外し、必要な針基、コネクタ等としっかり接続してください。その際、接続部先端には直接手を触れないように注意してください。
- 絹製縫合糸、ポリアミド縫合糸、ポリエステル縫合糸
 - ・一般的な縫合方法等によります。

（各構成部品）

- 短期的使用泌尿器用フォーリーカテーテル
 - ・使用前にバルーンの膨らみ具合を確認してください。
 - ・尿道口周辺を十分に消毒してください。
 - ・汚染に十分注意してカテーテルのシャフトに潤滑剤を塗布してください。（親水性加工付きについては滅菌蒸留水をかけて滑りを良くします。）
 - ・尿道口よりカテーテルを挿入し、バルーン部が膀胱内に達した後、規定容量の滅菌蒸留水をゆっくり注入してバルーンを拡張させ、バルーンが膀胱頸部に接触するまでカテーテルを少し引いて留置してください。
 - ・抜去の際はシリンジを装着し、吸引を行わずバルーン収縮による自然放水により滅菌蒸留水を排出させます。収縮が遅い場合や全く収縮しない場合はシリンジをもう一度装着し直してください。バルーンが収縮した後、異常な抵抗がないことを確認しながらゆっくりとカテーテルを引き抜いてください。

●間欠泌尿器用カテーテル

- ・尿道口周辺を十分に消毒した後、カテーテル先端部及び尿道口に潤滑剤を塗り、ゆっくりと尿道口より挿入してください。
- ・尿排出終了後は、直ちにカテーテルを抜いてください。

●硬膜外位置確認用ロスオブレジスタンス針なし注射筒

- ・外筒内で押し子がスムーズに動くことを確認してください。
- ・穿刺針（硬膜外麻酔用）（以下、硬麻針という。）を所定の部位に慎重に穿刺し、靱帯の抵抗を認めたら硬麻針の内針を抜去してください。
- ・硬麻針の針管針基に接続し、抵抗消失法（Loss of Resistance method）により硬麻針の針管を硬膜外腔へ進めてください。
- ・手技の終了後、硬麻針の針管針基から外してください。

●メス

- ・‘SNAP’部分がある場合にはその部分を折り、刃先カバーを外しそのまま使用してください。

●高周波処置用能動器具（電気メスペンシル、メス先端電極）

- ・電気手術器本体の主電源が投入されていないことを確認した後、電気メスペンシルを電気手術器本体に接続してください。電気手術器本体の出力設定は常に希望の臨床効果の得られる最小値に設定してください。
- ・可燃性麻酔剤や可燃性ガスを除去してください。また、体内で発生する可燃性ガスも含めて気化したガス等が充満しないように排除してください。

●電気手術器用ケーブル及びスイッチ

- ・一方のコネクタを電気手術器本体に接続し、もう一方のコネクタを鏡視下手術機器に接続してください。
- ・アダプタを使用する際、アダプタとコネクタを確実に接続し、金属部分が露出していないことを確認してください。

●穿孔器

- ・穿孔する血管の部位にメスで切り込みを入れ、エンドキャップを押した状態で先端のカッティングエッジを挿入し、カッターコアを血管壁に当て、エンドキャップを戻すことにより、血管壁を切断します。

●人体開口部用超音波プローブカバー

- ・プローブカバーが折りたたまれた状態で開口部から内部にジェルを適量注入し、プローブ先端部をプローブカバー内部に装着します。このときプローブとプローブカバーの間のエア抜き及び皺取りを行ってください。
- ・プローブカバー開口部を引っ張るようにのばし、プローブ及びケーブルをプローブカバーで覆い、ゴムバンドでプローブカバーを固定してください。

●体表面用超音波プローブカバー

- ・スリーブ内にジェルを適量注入しプローブをスリーブ内に装着した後、ゴムバンドで固定してください。

●内視鏡・関節鏡用接続チューブ

- ・回路内を洗浄完了後、クランプを閉鎖し、チューブを内視鏡又は関節鏡に接続してください。クランプの開閉操作は確実にを行い、灌流液の流量を調整してください。

●人工開口向け内視鏡用くもり止め

- ・使用する内視鏡のレンズ面を対角線方向へこすりつけるように移動させて界面活性成分を塗布してください。

* ●人工開口向け内視鏡用非電動処置具

- ・必ず指定のトロカールスリーブに差し込み、固定して内視鏡手術において、人工開口部を通して使用してください。

●排気用チューブ

- ・トロカール等に附属する活栓のメスコネクタに、ルアーロックコネクタを接続してください。
- ・気腹が安定したら、トロカール等に附属する活栓を開放してください。電気手術器及び高周波処置具を使用する場合は、大量の煙霧が頻繁に排出されるため、速やかにローラーランプを開放状態にしてください。

●汎用吸引用カテーテル(ヤンカーサククションチューブ)

- ・吸引調節口(チップトロール)付きのものは吸引調節口の開閉によって吸引圧の調整を行ってください。
- ・手元のスイッチがあるものはスイッチをスライドさせて吸引圧の調整を行ってください。

●汎用吸引用カテーテル(プールサククションチューブ)

- ・小さな術野の吸引を行う際は、外套管を外して細い内套管で吸引してください。外套管を取り付けて使用するときは、手元で内套管の位置を変えることができます。

●汎用吸引用カテーテル(フレーザーサククション)

- ・シャフト部にマンドリンを挿入し、シャフト部を吸引に適した形状に変形させたのち、マンドリンをシャフト部から取り出してください。
- ・吸引調節弁付きのものは、吸引調節弁にて吸引圧調整を行ってください。

●気管支吸引用カテーテル(サククションカテーテル)

- ・本品の先端部に潤滑剤を塗布した後、広く開いている方の鼻腔に静かに挿入してください。下咽頭に入って曲がるころまで本品を鼻腔の底部に沿って水平に進めていき、気管への挿入を行います。気管内の位置を確認し、挿入位置を決定してください。一度の吸引は10秒以内とし、繰り返し吸引を行う場合は吸引前に再び酸素を与えてください。

●気管支吸引用カテーテル(吸引カテーテル)

- ・コネクタを吸引器に確実に接続し、カテーテルを滅菌蒸留水に浸けて通水してください。吸引せずにカテーテルを目的場所まで挿入後、吸引圧を加えるとともに先端を回転させながら吸引してください。

●胸部排液用チューブ

〈開胸部とカテーテル留置部が異なる場合〉

- ・肋間等の適切な部位を開切し、カテーテル留置孔を作成後、カテーテルのファネル(ベベル)側を開胸部より挿入し、あらかじめ作成しておいたカテーテル留置孔を胸腔内から体外へ通過させるように挿入してください。
- ・カテーテル先端が目的部位に留置されたら、開胸部を縫合し、留置孔に隙間ができないようカテーテルと皮膚とを確実に固定してください。

〈開胸部とカテーテル留置部が同じ場合〉

- ・挿入した位置で縫合と同時にカテーテルと皮膚とをしっかりと固定してください。

●吸引キット

- ・吸引器が作動していないことを確認した上でソケットを吸引器に接続し、確実に接続されていることを確認してから吸引器を作動させて羊水を吸引してください。
- 必要に応じ吸引した羊水等の粘液量をトラップの目盛りで確認してください。

●体内留置排液用チューブ及びカテーテル(外科用ドレーン)

- ・目的の留置部位を挟んで2ヶ所に小切開を加え、その一方に本品の後端側から挿入した後、もう一方からペアン鉗子を挿入し、本品の後端側を掴み、臓器等と一緒に把持していないことを確認してから体外に引き出してください。先端側が目的部位に達したら閉鎖し、結紮により皮膚に固定してください。

●体内留置排液用チューブ及びカテーテル(ストレートドレーン)

- ・両手で持ってゆっくり裂き、留置部分に合わせて幅を調整してください。体内留置部分だけを裂くことにより、広い範囲の滲出液をまとめてドレナージすることが可能です。

●体内留置排液用チューブ及びカテーテル(T字ドレーン)

- ・留置部位を決定し、本品の横チューブを留置部位に合わせて適当に切って成形した後、注意深く丁寧に留置してドレナージを行ってください。
- ・多目的タイプの場合は、留置後縦チューブ及び側管チューブの末端部にコネクタを挿入してください。側管を使用しない場合は、側管用コネクタにコネクタキャップをしてください。

●体内留置排液用チューブ及びカテーテル(ペンローズドレーン)

- ・滲出液の最も貯留しやすい部位にドレーンチューブの先端を留置し、皮膚刺入部で縫合糸を用いて縫合し、さらに手術用テープ等で皮膚に固定、ドレーンチューブ後端部を滅菌ガーゼ等のドレッシング材で保護してください。

●カテーテルコネクタ

- ・カテーテルやチューブに接続します。段つきアダプタ側にはカテーテルアダプタ若しくはカテーテルの接続に使用します。流路の方向性はないのでどちらからも流路を確保することができます。

●臍帯閉鎖術用クリップ

- ・臍輪から約20mmの部位の臍帯をクランプの中央部分に合わせて、先端をカチッと音がするまで押して確実に結紮し、クランプの胎盤側部位を切断します。
- ・結紮・切断の約30～60分後には臍帯から出血のないことを確認します。
- ・結紮後24時間以上たってから外してください。

●ドレープ

- ・術野を消毒後十分に乾かし、皮膚に貼付してください。
- ・粘着面中央部より押し当て、周辺部へシワを作らないように押しつけながら貼り広げてください。
- ・手術後除去する際には、粘着部を180°に折り返して滑らせるようにゆっくりとした速度で剥がしてください。

●プラスチックカニューレ型穿刺針

- ・内針刃面が上向きになるように内針基を持ち、外針先端が完全に血管に入るまで穿刺した後、内針基をその位置に指で固定し外針のみを必要な深さまで挿入してください。外針基を指で固定して内針だけを抜き取り、外針基に輸液セット等をしっかりと接続してください。その後穿刺部位をテープ固定してください。静脈確保は、静脈確保にのみ使用してください。

●一般静脈用翼付針

- ・接続端子と輸液セットをしっかりと接続し、内腔を薬液で満たしてください。
- ・翼を摘んで静脈穿刺して、血液が逆流するのを確認した後に針を動かないように押さえてから、穿刺部位、翼、チューブを固定してください。

●輸血セット

- ・あらかじめ接続部に緩みがないことを確認してから使用してください。
- ・輸血開始時には、輸血状態(点滴の落下状態、ろ過点滴筒(ろ過網のない部分)内の液の高さ、血液製剤の減り具合)や穿刺部位を必ず確認し、輸血中も定期的に同様の確認をするとともに緩み、外れがないことを確認してください。

●輸液ポンプ用ストップコック

- ・接続部は全てルアーテーパーになっているので、保護栓を外し、必要な針基、コネクタ等としっかりと接続してください。必要に応じて三方活栓のハンドルを回転し、流路を変更してください。

●静脈ライン用フィルタ

- ・先端ルアー部分をしっかりと接続してください。
- ・フィルタ内の空気を徐々に追い出してから使用してください。
- ・常に同一方向に薬液等が流れるように使用してください。

●保護栓

- ・接続部分には手を触れないよう注意して、十分接続したことを確認して使用してください。

●ルアーアダプタ

- ・メスロックテーパー側にはオステーパーを有するチューブ類を、オスロックテーパー側にはメステーパーを有するチューブ類を接続します。段つきアダプタ側にはカテーテルアダプタ若しくはカテーテルの接続に使用します。
- ・メスロックテーパー側からオスロックテーパー側へ流路を確保できるが、反対側からは流路が確保できないよう逆止弁構造になっているものがあります。
- ・混注用キャップとして使用するものがあります。

●採液針

- ・シリンジ、コネクタ等に確実に接続し、バイアル等の薬液容器から薬液を採取してください。

●ニードルリキャップ器

- ・本品を水平で安定した適切な位置に置き、針キャップを傾斜の低い方を先端にしてホルダ部に設置してください。
- ・針付き注射筒の針全体を針キャップに納め、この状態から注射筒の先端が下方向に、ホルダ上で台座に対して垂直になるように立て、そのまま真下に押し込んで針キャップを完全に装着させてください。

●手術用ステープラ

- ・創縁を合わせてわずかに反転させ、ステープラを皮膚面に対し垂直に軽く押し当てしっかりとヒンジを押しステープルを打ち込んだ後、親指を完全にゆるめてからステープルを離脱させてください。

●体内固定用ワイヤ

- ・一般的な締結・縫合・固定方法等によります。

●縫合針

- ・縫合系を取り付け、持針器により組織を縫合します。

●縫合系固定用具

- ・使用後はカートリッジに戻し、数量の確認をしてください。

●救急絆創膏(穿刺部被覆保護材)

- ・台紙より本品を剥がし、創面にパッド部分をあて、剥離紙の付いていないテープ部分を貼付し、残りの剥離紙も取り去りしっかりと貼付してください。

●救急絆創膏(止血用ドレッシング材、ドレッシング材)

- ・創面にパッド部分をあて、周りのテープ部分でしっかりと固定してください。

●救急絆創膏(圧迫止血用ドレッシング材)

- ・針又はカテーテルを抜く直前にパッド長径を血管の走行に一致させ、血管刺入点がパッドの中心になるようにパッドをあて軽く仮止めをし、パッドを軽く指で押さえながら針又はカテーテルを抜いてください。針又はカテーテルを抜去すると同時に押さえていた指でパッドを強めに圧迫し、片方ずつテープ部を10 mm程度引き伸ばし皮膚にしっかりと貼付します。

●皮膚接合用テープ

- ・皮膚を清拭し、良く乾かして油分等を取り除いてください。
- ・縫合系又はステープルを併用しない場合は、創縁を引き合わせ、創に対して直角の向きにストリップを貼付してください。創が大きい場合は、緊張を分散させるために3 mm程度の間隔で貼付してください。

●粘性透明創傷被覆・保護材

- ・創縁から少なくとも25~30 mmくらいの範囲まで健常皮膚面に密着させます。

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

(キット製品全体)

- ・内容明細を確認し、事前に必要な器材、材料を準備すること。
- ・本品は滅菌済みのため、使用直前に開封して使用すること。
- ・1回限りの使用のため、再使用しないこと。
- ・破損のおそれがあるため、滅菌バッグに鋭利なものや硬いもの等が当たらないよう注意し、両手で製品全体を支えるようにして取り扱うこと。
- ・開封前には包装に破れ等の破損又は水濡れがないことを確認し無菌操作の上、包装から取り出し、直ちに使用すること。
- ・全ての操作において注射用針、穿刺針、メス、はさみ、縫合針、その他のものでドレープ類やチューブ類、その他器材を傷つけないこと。
- ・不織布製品は低リントの不織布を採用しているがノーリントではないため、使用前に各構成部品へのリント片(繊維の脱着片)の付着がないか確認すること。
- ・本品については、試験によるMR安全性評価を実施していない。

(構成部品共通)

- 天然ゴム製手術用手袋、短期的使用泌尿器用フォーリーカテーテル、ドレープ、ガウン、キャップ、包帯、不織布縫製品、汚染防止用カバー、駆血帯、結束具、ラベル
 - ・一部製品には天然ゴムが使用されている。天然ゴムは、かゆみ、発赤、蕁麻疹、むくみ、発熱、呼吸困難、喘息様症状、血圧低下、ショック等のアレルギー性症状をまれに起こすことがあるので、このような症状を起こした場合には直ちに使用を中止し、適切な治療を行うこと。
- メス、メス用刃、ナイフハンドル、はさみ、ピンセット、鉗子、高周波処置用能動器具、穿孔器、外科用テープ、汎用吸引チップ、洗浄針、カテーテル用クランプ、ドレープ、汎用針付注射筒、注射用針、皮下注射用針、プラスチックカニューレ型穿刺針、一般静脈用翼付針、自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット、輸血セット、採液針、取外し可能な皮膚ステープル、手術用ステープラ、絹製縫合糸、ポリアミド縫合糸、ポリエステル縫合糸、体内固定用ワイヤ、縫合針、持針器、防水シート、トレー、把持具、セーフティホルダ、結束具、固定具、ラベル、収納用ポケット
 - ・一部製品には金属が使用されている。金属に対するアレルギー患者には使用しないこと。
- 間欠泌尿器用カテーテル、内視鏡・関節鏡用接続チューブ、吸引チューブ、汎用吸引用カテーテル、汎用吸引チップ、気管支吸引用カテーテル、胸部排液用チューブ、吸引キット、カテーテルコネクタ、汎用洗浄用注射筒、X線造影材入りガーゼ、X線造影材入りスポンジ、自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット、自然落下式針なし輸液セット、輸血セット、延長チューブ、輸液ポンプ用延長チューブ、廃液チューブ、液体吸引具、廃液バッグ、手袋
 - ・脂溶性の医薬品ではポリ塩化ビニルの可塑剤であるフタル酸ジ(2-エチルヘキシル)が溶出するおそれがあるので注意すること。
- 吸引チューブ、カテーテルコネクタ、汎用注射筒、自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット、自然落下式針なし輸液セット、輸血セット、輸血・カテーテル用延長チューブ、延長チューブ、輸液ポンプ用延長チューブ、輸液ポンプ用ストップコック、活栓、ルアーアダプタ、採液針、洗浄用具
 - ・ポリカーボネート使用の構成部品については、脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含む医薬品、ヒマシ油等の油性成分、界面活性剤又はアルコール等の溶解補助剤等を含む医薬品を投与する場合及びアルコールを含む消毒剤を使用する場合は、本体にひび割れが生じ、血液及び薬液の漏れ、空気混入等の可能性がある。特に、全身麻酔剤、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響が生じる可能性がある。ライン交換時の締め直し、過度な締め付け及び増し締め等は、ひび割れの発生を助長する要因となるので、注意すること。

- 短期的使用泌尿器用フォーリーカテーテル、間欠泌尿器用カテーテル、硬膜外位置確認用ロスオブレジスタンス針なし注射筒、内視鏡・関節鏡用接続チューブ、吸引チューブ、汎用吸引用カテーテル、汎用吸引チップ、気管支吸引用カテーテル、胸部排液用チューブ、吸引キット、体内留置排液用チューブ及びカテーテル、洗浄針、カテーテルコネクタ、汎用注射筒、汎用針付注射筒、経腸栄養注入セット、注射用針、皮下注射用針、プラスチックカニューレ型穿刺針、一般静脈用翼付針、自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット、自然落下式針なし輸液セット、輸血セット、輸血・カテーテル用延長チューブ、延長チューブ、輸液ポンプ用延長チューブ、輸液ポンプ用ストップコック、活栓、静脈ライン用フィルタ、保護栓、ルアーアダプタ、採液針
 - ・使用中は接続部の漏れや外れに注意し、締め直し等の適切な処置を行うこと。[薬液の付着等により使用中に緩むことがある。]
- 短期的使用泌尿器用フォーリーカテーテル、間欠泌尿器用カテーテル
 - ・カテーテル挿入時に異常な抵抗を感じたときは無理に挿入操作を行わず、カテーテルを抜き挿入できなかった原因を確認すること。
- 間欠泌尿器用カテーテル、吸引チューブ、気管支吸引用カテーテル、胸部排液用チューブ、体内留置排液用チューブ及びカテーテル
 - ・無理に引っ張ったり折ったりしないこと。
 - ・鋭角なノッチや傷が付かないように十分に注意すること。
 - ・鉗子等で強く掴まないこと。
- 間欠泌尿器用カテーテル、胸部排液用チューブ、体内留置排液用チューブ及びカテーテル
 - ・無理な挿入及び抜去はしないこと。
 - ・固定する際は、本品の周囲を糸で結紮すること。直接安全ピンを刺したり、糸を通して縫いつけたりしないこと。
- メス、メス用刃
 - ・刃の部分には手を触れないこと。
- * ●天然ゴム製手術用手袋、非天然ゴム製手術用手袋
 - * ・電気メスペンシル使用時に、高周波回路が形成されないよう注意すること。[手袋の電氣的絶縁性が損なわれ、熱傷が発生するおそれがある。]
 - * ・薬品、溶剤、油脂等を使用する場合は手袋の状態を確認の上使用すること。[膨潤、浸透、劣化のおそれがある。]
- はさみ、ピンセット、鉗子、持針器
 - ・熱傷や感電の危険性があるので、電気メスペンシルを直接接触させないこと。
 - ・正常に動作することを確認し、使用中は酸や生理食塩液等、金属を錆びさせる物質との接触は最小限にとどめること。
- 人体開口部用超音波プローブカバー、体表面超音波プローブカバー
 - ・ゴムバンドはしっかりと固定すること。
 - ・ジェルは適量使用すること。[使用量が少ないと画像が不鮮明になるおそれがある。]
- 汎用吸引用カテーテル、気管支吸引用カテーテル、吸引キット
 - ・無理な挿入・抜去及び吸引はしないこと。

●ドレープ、皮膚接合用テープ

- ・使用により、かぶれ等の皮膚障害が生じた場合には、直ちに使用を中止すること。

●外科用テープ、医療ガーゼ、X線造影材入りガーゼ、医療用不織布、医療脱脂綿、コットンボール、綿状パッド、X線造影材入りスポンジ、医療用スポンジ、開腹術用スポンジ、手術用被覆・保護材

- ・体内に留置しないこと。

●医療ガーゼ、X線造影材入りガーゼ、綿状パッド、X線造影材入りスポンジ、開腹術用スポンジ

- ・電気メスペンシル等を近づけないこと。[切断又は引火するおそれがある。]

●医療ガーゼ、医療用不織布、医療脱脂綿、コットンボール、綿状パッド、医療用スポンジ

- ・術前に数を確認し、術後に再度数を確認すること。

●X線造影材入りガーゼ、X線造影材入りスポンジ、縫合針

- ・術前に数を確認し、術後に再度数を確認すること。もし、数量が合わなければ、X線をかけて確認すること。

●X線造影材入りガーゼ、綿状パッド、X線造影材入りスポンジ

- ・造影系を直接挟まないこと。ガーゼやX線造影系に強い負荷がかからないように使用すること。[造影系が切れる又は抜け落ちる原因となる。]

●綿状パッド、X線造影材入りスポンジ

- ・乾いた状態で直接使用しないこと。また、使用中は乾かないようにしておくこと。

●麻酔用注射筒、汎用注射筒、汎用針付注射筒、経腸栄養注入セット

- ・医薬品の種類によっては外筒の内側に塗布されているシリコーン油が析出することがあるので注意すること。析出した場合は医薬品の電子添文を確認し、適切な処置を行うこと。
- ・シリリング外筒印刷部を強くこする、又は薬液等がついた状態で放置すると、印刷部が消える又は剥離する可能性があるので注意すること。
- ・押し子が外筒から抜ける可能性があるため、外筒印刷部の目盛りを越えて押し子を引かないこと。外筒とガスケットの密着性が低下して液漏れや空気の混入、又はガスケットが外れる可能性があるため、外筒を強く押し潰さないこと及び強く握らないこと、並びに押し子を斜めに引かないこと。

●汎用注射筒、汎用針付注射筒、一般静脈用翼付針、輸血セット、延長チューブ、輸液ポンプ用延長チューブ、輸液ポンプ用ストップコック、活栓

- ・高圧注入には使用しないこと。[液漏れ又は破損する可能性がある。]

●汎用針付注射筒、注射用針、皮下注射用針、自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット、採液針

- ・ゴム栓にはまっすぐ刺通し、同一箇所を繰り返し刺通しないこと。また、薬液容器壁面に針先が接触しないようにすること。[ゴム片の混入、容器の削れ又は針先が変形する可能性がある。]
- ・薬液の充填後は直ちに使用すること。[薬液が汚染する、又は結晶化し詰まるおそれがある。]

●洗浄針、汎用針付注射筒、注射用針、皮下注射用針、プラスチックカニューレ型穿刺針、一般静脈用翼付針、自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット、自然落下式針なし輸液セット

- ・針管は直接手を触れないように注意すること。[針刺し及び感染のおそれがある。]
- ・プロテクターを外すときに針先がプロテクターに触れないように注意すること。
- ・プロテクターを被せる必要がある場合には、保護具等を使用する又は吸引及びプロテクターからの針の飛び出しに注意すること。

●洗浄針、汎用注射筒、汎用針付注射筒

- ・針基に過剰な負荷をかけないこと。[針管又は針基が破損するおそれがある。]

●洗浄針、汎用注射筒、汎用針付注射筒、注射用針、皮下注射用針、保護栓

- ・接続部には手を触れないよう注意し、確実に接続したことを確認して使用すること。また、使用中は本品の破損、接続部の緩み及び薬液漏れ等について、定期的に確認すること。

●洗浄針、注射用針、皮下注射用針、一般静脈用翼付針

- ・針管を曲げたり、曲がった針管を元に戻したりして使用しないこと。[針管が折れて体内に残留する、又は針管内で薬液が詰まるおそれがある。]

●汎用針付注射筒、プラスチックカニューレ型穿刺針、保護栓

- ・接続に際して、過度の締め付け及び増し締め等には十分注意すること。[接続部が破損するおそれがある。]

●皮下注射用針、採液針

- ・使用中は破損、接続部の緩み、液漏れ及び詰まり等について、十分注意すること。

●麻酔用注射筒、採液針

- ・薬液の吸引後は直ちに使用すること。[薬液が結晶化し、針管に詰まるおそれがある。]

●自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット、自然落下式針なし輸液セット

- ・チューブ内にエアが混入すると薬液が正常に滴下しないことがあるので注意すること。

●自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット、自然落下式針なし輸液セット、輸血セット、延長チューブ、輸液ポンプ用延長チューブ

- ・輸血又は輸液の操作を一時的に中断する等、三方活栓から輸血又は輸液セット、延長チューブ等を取り外す際には、キャップ等を接続すること。[液漏れや空気混入、汚染のおそれがある。]

●延長チューブ、輸液ポンプ用延長チューブ

- ・チューブと端子が外れたり、漏れが生じたりする場合があるので、40kPa以上の圧力が加わる使用はしないこと。輸液ポンプ等の自動輸液装置での輸液では、輸液回路内閉塞による高圧力が加わらないように注意すること。
- ・ロックコネクタとポリ塩化ビニル製のメスコネクタを接続する場合は、外れなくなる可能性があるため注意すること。

●縫合糸、縫合針、縫合線、縫合糸、縫合針、縫合線、縫合針、縫合線、縫合針、縫合線、縫合針

- ・変形した針、傷ついた針は針折れの原因となるので使用しないこと。

●縫合糸、ポリアミド縫合糸、ポリエステル縫合糸

- ・鉗子や持針器等の手術器具で糸を押しつぶしたり器具に糸を絡めたりして縫合糸を傷つけないこと。
- ・各号数における強度規格値を上回る負荷がかかるような部位や手技には使用しないこと。
- ・縫合糸を尿管や胆管内の塩類と長時間接触させないこと。〔結石が形成されるおそれがある。〕
- ・長期に抗張力を必要とする部位には使用しないこと。〔抗張力が低下するおそれがある。〕

●救急絆創膏、粘着性透明創傷被覆・保護材、手術用被覆・保護材

- ・使用中、創に本品が原因と推察される臨床的感染が起きた場合及び皮膚障害（発疹・発赤、かゆみ等）と思われる症状が現れた場合には、使用を中止し適切な治療を行うこと。
- ・濡れたり汚れたりした場合及び血液や滲出液等の滲みかみられた場合は、直ちに新しいものと貼り替えること。本品を剥がすときは、皮膚を痛めないよう体毛の流れに沿ってゆっくり剥がすこと。

（各構成品）

●非天然ゴム製手術用手袋

- ・製品に含まれる化学物質により、かゆみ、かぶれ、発疹等のアレルギー性症状（Ⅳ型・遅延型：主に加硫促進剤等の添加剤の化学物質による）を起こすことがある。このような症状を起こした場合には、直ちに使用を中止し医師に相談すること。

●短期的使用泌尿器用フォーリーカテーテル

- ・使用前にバルーンの膨らみ具合を確認すること。
- ・無理な挿入及び抜去はしないこと。
- ・バルーンを拡張させる際に、規定容量以上の滅菌蒸留水を注入しないこと。
- ・体動等でねじれたり折れ曲がったりしてカテーテルが閉塞するおそれがあるのでカテーテルの固定方法に注意すること。

●短期的使用泌尿器用フォーリーカテーテル（フォーリーカテーテル）

- ・小児用の場合は、挿入前にスタイレットを抜き取って使用すること。

●硬膜外位置確認用ロスオブレジスタンス針なし注射筒

- ・使用中に気密不良等の異常を感じた場合は使用を中断すること。

●ピンセット

- ・手術又は処置時において皮膚及び組織等を把持しないこと。
- ・重いものや滑りやすいものを把持しないこと。

●高周波処置用電動器具（電気メスペンシル、メス先電極）

- ・可燃性のガスや液体の存在するところ、酸素濃度の高い環境では使用しないこと。酸素吸入中は出力させないこと。〔気管チューブ等が電気メスペンシルで損傷した場合、酸素は可燃性物質のため、電気メスペンシルの先端部で発生する火花が近づくとき急激にその火が大きくなり、気管チューブ等が燃焼、咽頭部・気管支・肺まで延焼する可能性がある。一度引火すると酸素供給源を閉じるまで消火が困難となる可能性がある。〕
- ・液体に浸したり、上からかけたりしないこと。
- ・モノポーラモードにて動作するため、使用前に対極板を患者に対し正しく装着すること。

- ・偶発的な通電により患者が負傷する又は可燃物に引火する危険性を避けるため、術中使用しないときは絶縁ケースの中に入れて患者や術者に接触しないようにすること。また、その際、ケースに単品で入れ、複数入れることはしないこと。特に金属製の器具を同一のケースに入れることは絶対に避けること。

- * 電気メスペンシルの中にメス先電極をしっかりと装着すること。また、電気メスペンシルに適合しないメス先電極を接続しないこと。〔電気メスペンシルとメス先電極の接続部でアークが発生し、患者や術者に損傷を与える可能性がある。〕

- ・メス先電極の装着・抜去は、絶縁部分を持って行い、電気手術器本体の出力中にはこれらの操作を行わないこと。

- ・ループタイプやニードルタイプの電極は凝固モードで使用しないこと。〔ループやニードルが切断されることがある。〕

- ・コーティングタイプのメス先電極又は銀チップ付の器具は電極クリーナーでの炭化物除去に使用しないこと。〔コーティングが剥がれて機能を発揮しなくなる。〕

- * 鋼製器具を使用して電気メスペンシルのコードをドレープに固定しないこと。〔鋼製器具が患者に接触した状態で出力すると熱傷が発生するおそれがある。〕

- * 身体内の金属製埋植物（クリップ、ステープル、インプラント等）のある部分に電流を流さないこと。〔メス先電極と金属製埋植物との間で放電が起こり、それらを破損するおそれがある。〕

- * 熱傷や感電の危険性があるので、鋼製器具を直接接触させないこと。〔鋼製器具またはメス先電極を破損・溶解することがある。〕

- * 針状の生体モニタ電極の使用は可能な限り避けること。〔モニタ電極面積が小さい場合、高周波分流による熱傷が発生するおそれがある。〕

- * 併用する電気手術器本体の出力モードの選択、及び出力設定にあたっては、本品の定格電圧を超えない高周波電圧とすること。出力モードごとの最大高周波電圧は電気手術器本体の電子添文又は取扱説明書等を参照すること。

●電気手術器用ケーブル及びスイッチ

- ・手術用の電極コードを患者又は他の導線に接触しないように置くこと。〔感電、火災、患者や術者の負傷を引き起こすような電流が発生する可能性がある。〕

- ・手術前及び手術中は、電気手術器本体の出力設定が適切であることを確認すること。希望の効果を得るのに必要な最も低い出力設定で使用する。設定出力を大きく上げる前には、すべてのアクセサリの接続を確認すること。〔意図しない高い出力が出ると熱傷を負うことがある。〕

- ・電気手術器本体の出力中にアクセサリ類の接続/取り外しを行わないこと。〔感電、火災、患者や術者の負傷を引き起こすような電流が発生する可能性がある。〕

- ・本品の絶縁が損なわれていないことを確認すること。〔完全に絶縁されていない場合、金属と金属の間で意図しないスパーク（火花）が生じたり、神経筋刺激及び/又は隣接組織への意図しないスパークが生じたりするおそれがある。〕

●電極クリーナー

- ・本品又は破損部が体内に脱落したときは、すぐに回収すること。
[体内遺残のおそれがある。]
- ・本品及び摩擦り落とした炭化物や付着物等の術野への落下を防止すること。
- ・コーティングタイプのメス先電極又は銀チップ付の器具は電極クリーナーでの炭化物除去に使用しないこと。[コーティングが剥がれて機能を発揮しなくなる。]

●穿孔器

- ・本品を操作するときは手のみで行い、他の器具等を用いて使用しないこと。
- ・操作中に本品を曲げないこと。

●外科用テープ

- ・ポリエステル又はシリコーンに対するアレルギー患者に使用しないこと。
- ・組織を必要以上に強く牽引しないこと。

●人体開口部用超音波プローブカバー

- ・プローブより小さなサイズを使用しないこと。[破損のおそれがある。]
- ・ジェルは【使用方法等】に記載の方法以外では使用しないこと。
[ジェルの粘膜及び体液等との接触は意図されていない。]
- ・プローブへの装着は附属のシートの上で行うこと。
- ・附属のシートを治療行為に使用しないこと。

* ●人工開口向け内視鏡用非能動処置具

- * ・レーザーや電気メス及び超音波手術器具を使う場合、患者や医療従事者へのショックや熱傷、器具やその他の医療器械の損傷を避けるため、その原理と技術をよく理解しておくこと。また、絶縁やアースが完全であることを必ず確認すること。耐水設計の表示がない限り、電気手術器具を液体に浸さないこと。
- * ・異なる製造業者の器具や付属品を同時に使用する場合は、手術開始前にその適合性を必ず確認すること。[予期せぬ結果を招き、使用者や患者に傷害を及ぼすおそれがある。]
- * ・本品をトロカールスリーブに挿入する際は、ゆっくり丁寧に行い、軸を折らないように注意すること。
- * ・使用の際は先端に過度な力をかけると軸折れを招く原因となるので注意すること。

●排気用チューブ

- ・トロカール等への接続が十分であるか再度確認すること。
- ・過度な力を加えないこと。[本品の損傷や機能が保てなくなるおそれがある。]

●気管支吸引用カテーテル

- ・吸引前及び吸引中は十分な酸素を患者に与えること。
- ・挿入が困難な場合には舌にガーゼを巻いて舌を前方に引き咽頭蓋が前方に動き声門が開くようにすること。酸素を与えている間は吸引を行わないこと。
- ・低酸素状態や粘膜損傷を発生させる場合があるので、吸引時間、吸引圧及び挿入操作に十分注意すること。

●胸部排液用チューブ

- ・使用時は適正な吸引圧に設定すること。

●吸引キット

- ・羊水等の吸引以外の目的で使用しないこと。
- ・カテーテル等を挿入する際は、鼻孔及び気管の粘膜や組織を傷つけないように注意すること。
- ・吸引チューブ及びカテーテルを鉗子等の硬いもので挟まないこと。
- ・羊水トラップは傾けて使用せず、目盛り以上に吸引しないこと。

●体内留置排液用チューブ及びカテーテル(外科用ドレーン)

- ・留置中は廃液の量、性状を十分に観察し、カテーテルの状態を常に管理すること。
- ・ドレーンジバグ等を挿入部より高く上げたり、廃液を逆流させたりしないように十分に注意すること。
- ・カテーテル留置中は、血清の排液量やエアリークの確認等、患者状態をモニタリングすること。
- ・長さ調節のために本品を切る際には、チューブに対して垂直に切ること。[チューブの切断面が垂直でないと、製品の脱落及び断裂、裂け等を引き起こすおそれがある。]

●体内留置排液用チューブ及びカテーテル(T字ドレーン)

- ・コネクタ及び側管用コネクタが挿入しづらい場合は、アルコール等で濡らしてから挿入すること。
- ・チューブに側孔を施す場合は、過大な側孔を避け、丸みを帯びた側孔とすること。

●臍帯閉鎖術用クリップ

- ・臍帯クランプの中央で結紮すること。

●ドレープ

- ・使用前には破れ等の破損又は水濡れがないことを確認すること。
- ・高熱を発する機器類やその他火気に接触すると、燃焼或いは発火する危険性があるので注意すること。
- ・縫合糸、ステープル等の創傷閉鎖材料の代用として使用しないこと。
- ・一部製品には伸縮蛇腹ホースが付いている。このホースに吸引器を接続して使用する際は、ドレープ展開時、流水袋が閉塞しないように流水袋に付いているサポートバーで開口部を開き、その形を保持すること。吸引器の使用時に流水袋が閉塞するとホース内が陰圧になり、ホース自体が不意に収縮するおそれがあるので注意すること。
- ・使用後、粘着剤付きドレープを患者から除去する際は、粘着部を180°折り返すような方向へゆっくりとした速度で剥がし、除去すること。
特に高齢患者等皮膚が脆弱な患者に対しては、格別の配慮が必要である。
- ・プラスチック・ドレープを介して除細動をかけないこと。[分流が起きたり、除細動の効果が不十分になったりする可能性がある。]
- ・使用中は、接着部品への過荷重を避け、接着部の剥がれに注意すること。

●創傷保護リング

- ・高熱を発する機器類に接しないように注意すること。

●医療用不織布

- ・繊維が患部に残らないように注意すること。

●綿状パッド

- ・糸や基布を強く引っ張らないこと。

●医療用スポンジ

- ・高濃度アルコールを含む薬液を使用する場合、やや膨張する場合がある。それら薬液に使用する際は、金属製の鉗子等での使用を避けること。[破損するおそれがある。]

●プラスチックカニューレ型穿刺針

- ・屈曲部に穿刺しないこと。[カテーテル先端が血管内壁を傷付けたり、留置後の屈曲によりカテーテル折れ、閉塞、破断等が生じたりする可能性がある。]

●自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット

- ・針を用いて混注する前に、必ず混注部位を消毒用アルコールを含ませた酒精綿等で消毒すること。〔細菌が混入するおそれがある。〕
- ・エアイベント付フィルタは、ヒマシ油等の油性成分、界面活性剤又はアルコール等の溶解補助剤等を含む医薬品を使用しないこと。〔エアイベントフィルタが親水化され、液漏れが発生することがある。〕
- ・輸液中、フィルタは患者の穿刺部よりも低い位置を保つこと。〔フィルタを高い位置から低い位置に下げると、フィルタから空気が流出し、血液がチューブ内に逆流するおそれがある。〕

●輸液ポンプ用ストップコック

- ・L型を使用する場合は、ハンドルを180°以上回転しないこと。
- ・コネクタ等を接続して使用する際は、過剰に締め付けないこと。
- ・液体が漏れたり構成部品から外れたりする可能性があるため、150kPa以上の圧力が加わる使用はしないこと。
- ・接続部にひび割れが生じる場合があるので、アルコール等の有機溶剤を含む消毒剤は使用しないこと。
- ・接続部にひび割れが生じる場合があるので、油性の造影剤、脂肪乳剤、アルコール等を含む薬剤を使用するときは確認しながら使用すること。

●活栓

- ・破損、空気混入、液漏れ及び詰まり等について定期的に確認すること。

●静脈ライン用フィルタ

- ・許容耐圧は517kPaであるため、それ以上の圧力で使用しないこと。〔過剰圧によってフィルタが破損する可能性がある。〕
- ・常に同一方向で薬液等が流れるように使用すること。
- ・脂肪乳剤等のエマルジョン系薬剤、血液製剤等はフィルタに触れると、フィルタが詰まる可能性がある。

●保護栓

- ・Fタイプ（エアイベント付）は通気性があるので、注射剤等を密栓する目的で使用しないこと。〔液が漏れ出すおそれがある。〕

●ルアーアダプタ

- ・本品に過度の引張りや、接続部に対する過度の応力を加えないこと。〔接続部の破損、緩みや外れ等が生じるおそれがある。〕

●手術用ステープラ

- ・縫合する皮膚表面と、その下の血管、主神経、臓器、骨、腱や靱帯等の組織との距離が5mm以上確保できない場合は、本品を使用しないこと。〔皮下組織を損傷させる可能性がある。〕
- ・創傷に対しステープラを押し付け過ぎないこと。

●絹製縫合糸

- ・絹に対する過敏症・アレルギー患者には使用しないこと。

●体内固定用ワイヤ

- ・ワイヤがよじれたり、ねじれたりして傷まないように留意すること。
- ・縫合針が付いた構造の場合、針とワイヤ接合部の端から針先までの長さの3分の1から2分の1の部分で針を把持、ワイヤ部と縫合針部が一体となった構造の場合、縫合針状に加工した針の縫合針状部の端から針先までの長さの3分の1から2分の1の部分で針を把持すること。
- ・各号数における強度規格値を上回る負荷がかかるような部位や手技には使用しないこと。

●縫合針

- ・針を把持する際には、針先と糸孔部分の損傷を避けるため、糸孔部分の端から針先までの長さの3分の1から2分の1の部分で針を把持すること。〔それ以外の部分において把持すると針折れ等品質劣化することがある。〕

●縫合糸固定用具

- ・使用する鉗子のジョー部分に縫合糸固定用具の脱落がなく、しっかりと装着されていることを確認すること。

●救急絆創膏（圧迫止血用ドレッシング材）

- ・血管や皮膚への損傷を避けるため、必ず抜針してから貼付すること。
- ・テープ部を圧迫に必要な長さ以上に伸ばして貼付すると皮膚が過度に引っ張られる状態になり、皮膚刺激の原因となるので注意すること。また、皮膚刺激をできるだけ避けるため、貼付時間は2時間を目安にして剥がすこと。剥がしたときは、必ず止血ができていることを確認すること。

●皮膚接合用テープ

- ・皮膚を清拭し、良く乾かして油分等を取り除いた後に皮膚に対して緊張をかけずに貼付すること。

●粘性透明創傷被覆・保護材

- ・引っ張って伸ばした状態で貼付すると皮膚障害や剥がれの原因となることがあるので注意すること。

●手術用被覆・保護材

- ・体内に深く挿入し、埋め込まないこと。
- ・裁断面から糸がまつれることがあるので、体内に残らないように使用すること。
- ・裏表があるタイプの場合は、防水材側を創部に当てて使用しないこと。

●ポリドンヨード製剤

- ・ヨウ素に対する過敏症の既往歴のある患者には使用しないこと。
- ・溶液の状態で長時間皮膚と接触させないこと。
- ・目に入った場合は、直ちに水でよく洗い流すこと。

●附属品

切開線用マーカ

- ・ペン先を溶液等に接触させないようにすること。

潤滑ゼリー

- ・カテーテル等の挿入時以外で使用しないこと。

【保管方法及び有効期間等】

〈貯蔵・保管方法〉

水濡れに注意し、直射日光、高温多湿及び急激な温度変化を避けて保管してください。

化学薬品保管場所、その他ガスの発生する場所を避けて保管してください。

〈有効期間・使用の期限〉

内容明細又は表示ラベル上に品質有効期限が記載されています。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者 株式会社リブドゥコーポレーション
愛媛県新居浜市観音原町乙118-1
TEL:0897-47-5611